

京都大学	博士（社会健康医学）	氏 名	本間 隆之
論文題目	Demographic and behavioral characteristics of male sexually transmitted disease patients in Japan: a nationwide case-control study (男性性感染症患者の疫学的特性に関するケースコントロール研究)		
(論文内容の要旨)			
【背景】わが国では 1990 年代半ばから性感染症(STI)の増加が著しい。近年になって増加の速度は緩やかになってきたものの、なお高い発生率を維持している。STI の動向については、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき感染症発生動向調査が行われ、年齢、性別、報告地が集計されているが、具体的な STI 予防介入策の立案の基礎となる、どのような集団のどのような行動が STI 増加に寄与しているのかに関する科学的な疫学情報は存在しない。そこで本研究では、1990 年代後半に起こった STI の急激な増加の背景を明らかにするために、ケースコントロール研究デザインにより、男性 STI 患者の人口統計学的特性及び性行動の特徴を疫学的に分析することを目的として研究を実施した。 【研究方法】1999 年に筆者らが実施した 2 つの研究－①全国 STI 患者性行動調査 (STI を主に診療している全国 6 地方 7 大都市の 21 の医療機関の受診者を対象とした調査、連続サンプリング、回収数 1119、回収率 84.9%) と②全国一般集団性行動調査(無作為 2 段階サンプリングによる一般住民調査、回収数 3562、回収率 71.2%)－のデータの中から、18-59 歳で 6 地方に属する男性対象者を、それぞれケース群(n=765)、コントロール群(n=1167)としたケースコントロール研究を行った。両調査で使用された質問紙に共通している質問項目を用い、属性、性行動を比較した。分析は、過去 1 年間に性経験のある者に限定した。 【結果】多変量ロジスティック回帰分析の結果、STI 罹患は、40 歳未満であること(調整オッズ比(AOR)3.94, 95%信頼区間[CI] 2.17-7.15)、配偶者がいないこと(AOR 2.65, 95%CI 1.80-3.91)、大学・短大卒以上であること(AOR 2.03, 95% CI: 1.45-2.83)と強い関連が見られた。また、性行動では、過去 1 年間のパートナー数との間に量反応関係が見られ (2～3 人 : AOR 3.33, 95% CI 2.20-5.05、4 人以上 : AOR 6.29, 95% CI 3.81-10.37) 、また、過去 1 年間の特定パートナーとの無防備な性交(AOR 2.70, 95% CI 1.75-4.17)、不定期のパートナーとの無防備な性交(AOR 2.14, 95% CI 1.40-3.26)、金銭を介した相手との無防備な性交 (AOR 2.64, 95% CI 1.46-4.80) や口腔性交 (AOR 4.72, 95% CI 3.04-7.32)と有意な関連が見られた。 【考察】本研究によって、わが国の STI 患者の特徴が初めて定量的に明らかになった。STI 患者には、比較的高学歴であること、職業が偏りなく広範にわたること、特定のパートナーとの無防備な性行動が多いことが示され、わが国において、STI 罹患リスクが、幅広い社会経済階層の通常の性行為にまで浸透していることが示唆された。また、金銭を介した相手との性行為、特に口腔性交が STI 罹患リスクに強い関連を示すことが明らかとなり、欧米諸国と大きく異なる特徴を有することが明らかとなった。わが国の STI 対策や HIV 対策の立案は、こうした特徴を考慮することが望まれる。			

(論文審査の結果の要旨) わが国では 1990 年代半ばから性感染症(STI)が急増したが、それに寄与した集団や性行動の特性は不明であった。本研究では、1999 年にほぼ同一の質問票を用いて実施された 2 つの全国規模の性行動調査データを用いて症例対照研究を実施し、STI 患者の特性を検討した。 対象は、過去 1 年間に性経験のある 18-59 歳の男性で、症例(n=765)は、全国 STI 患者調査(6 地方 21 医療機関、連続サンプリング、n=1119、回収率 85%)から、対照(n=1167)は、全国一般住民調査(無作為 2 段階サンプリング、n=3562、回収率 71%)から抽出した。 多重ロジスティック回帰分析の結果、属性では、40 歳未満(調整オッズ比 [AOR] 3.9)、配偶者なし(AOR2.7)、大学・短大卒以上(AOR2.0)が、過去 1 年間の性行動では、相手数(2～3 人、AOR3.3、4 人以上、AOR6.3)、特定の相手との無防備な膣性交(AOR2.7)、不定期の相手との無防倫な膣・口腔性交(AOR2.1)、金銭を介した相手との無防備な膣性交(AOR2.6)や口腔性交(AOR4.7)が STI 罹患と有意の関連を示し、職業は無関連であった。 以上の研究は、わが国の 1990 年代に生じた男性間の STI 流行に寄与した集団や性行動について、国際的にも特有なその疫学的特性を初めて解明したものであり、STI/HIV 予防の促進に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士(社会健康医学)の学位論文として価値あるものと認める。なお本学位授与申請者は、平成 20 年 1 月 20 日実施の論文内容とそれに関連した学識確認のための試問を受け、合格と認められたものである。			
要旨公開可能日： 年 月 日 以降			